



## 表彰式 「水泳記録会」「チャレンジテスト」



先週、リモート全校集会で、水泳記録会とチャレンジテストの表彰を行いました。下の作文は、水泳の目標達成に向けて努力を続けた3年生のものです。

3年生の水泳のはじめのころは、25mができるかできないかぐらいで、とてもくやしかったです。だから、夏休みに25mを午前と午後に10回ぐらいずつ泳ぐ練習をしました。筋肉痛にもなりました。姉も協力してくれたおかげでクロールで50m泳ぐことができました。でも、私の目標は100m泳ぐことでした。クロールだけでは泳げなかったので、平泳ぎの練習もしました。その結果、水泳記録会では、クロールと平泳ぎをつかって初めて100mを泳ぐことができました。来年は、もっともっと長く泳げるようにがんばりたいです。  
(3年 Rさん)

筋肉痛になりながらも、お姉さんのサポートを受け、さらに自分で練習方法を工夫しながら頑張り続け、ついに目標の100m達成。本当に素晴らしいです。改めて子どもの可能性を感じました。

表彰式の後、子どもたちに「努力の壺」の話をしました。努力はすぐには実を結ばない、努力を続けていくと必ずできるようになるという話です。努力の壺から水があふれ、目標を達成することができた皆さん、おめでとうございます。努力の壺の中の水は消えませんが、残念ながら表彰されなかった子も努力を続けていけば必ずできるようになります。あきらめずに頑張り続けることを期待します。



### ほめるときのポイント

子どもをほめることは、とても大切なことです。ただ、そのほめ方にも注意が必要です。ときにはマイナスの効果になることもあります。

ほめるときのポイント、それは、「過程」を意識してほめるということです。「こんなふうにしてがんばったからできたんだね。」「この練習法(勉強法)がよかったんだね。」など、「結果」よりも「過程」をほめることで、子どもの中に「過程」が意識されるようになります。たとえこの次によい結果が出なくても、次はどうすればよいのか自分で考えるようになります。つまり「努力を続ける子ども」に育っていくというわけです。

### 「ふくしま学力調査」から分かること

4年生以上が4月に受けた「ふくしま学力調査」の個人結果票を先日配付しました。このテストの特長は、他の子や平均点との比較ではなく、「自分の今の学力レベル」と過去の自分からの「伸び」を把握できることです。(今回4、5年生は初めての実施です。「伸び」は分かりません。)

また、学力との関係が強い「学力以外の力」(根気がある、やるべきことをきちんとやる、自分に自信がある等)がどれだけ身に付いているのかが見えるようになります。参考までに右に本校児童の傾向を記載しました。

### 「学力以外の力」本校児童の傾向

A:できている B:ほぼできている  
C:あまりできていない D:できていない

#### ■けじめのある生活

- 1 時刻を守る…A
- 2 身の回りの整理整頓…B

#### ■礼儀正しく人と接する

- 1 あいさつ・返事…B
- 2 丁寧な言葉遣い…A

#### ■約束やきまりを守る

- 1 学習のきまりを守る…C  
(話を聞き発表することができていない)
- 2 生活のきまりを守る…B